

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	農地・水・農村環境保全向上支援事業費					
担 当 課 係 名	農 林 課		農 村 整 備 係		作 成 者	齋 藤 洋
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	特色ある資源を活かした産業創造のまち				総合計画の ページ
	基本計画	特色ある農業の振興				
	主要施策	営農体制の整備				63
予 算 費 目	一 般 会 計	6 款 農 林 水 産 費	1 項 農 業 費	5 目 農 地 費		
事 業 期 間	平成 19 年 度 ～ 平成 23 年 度			新 規 / 継 続 の 区 分		継 続
性 質 区 分	☐ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☒ 補助金 ☐ 内部管理					
根 拠 法 令 等	農地・水・農村環境保全向上対策実施要綱					
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務					
運 営 方 法	☐ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☒ 補 助					

【事務事業の実施内容】

事業の対象 （誰のため・何を）	地域ぐるみでの効果の高い共同活動に取り組む組織に対して交付金を交付する
事業の目的・意図 （どういう状態にしたいのか）	地域において農地・水・環境の良好な保全と質的向上を図ることを通じて地域振興に資する為、地域ぐるみの効果の高い共同活動や、農業者の先進的営農活動を支援する
事業の内容 （どのような業務、活動を行うのか）	農地・農業用水等資源の適切な維持管理・保全(基礎部分) 前記の質的向上を図り、施設の長寿命化を図る(誘導部分) 生態系保全・水質保全・観形成等農村環境保全活動(農村環境向上活動) の 各 テーマからなる活動

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績
効果	活動指標	対象事業地区数	目標	地区		31	31
			実績	地区		31	31
			達成度	%		100.0%	100.0%
	成果指標	事業対象面積	目標	ha		2,266	2,266
			実績	ha		2,266	2,266
			達成度	%		100.0%	100.0%
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)
	事業費（人件費を除く）(A)					25,622	26,227
	人 件 費 (B)		—			24,213	23,775
	財源内訳	職 員 数	—			3.00	3.00
		職 員 平 均 人 件 費	—			8,071	7,925
		(A) + (B) 投下コスト					49,835
	財源内訳	国 庫 支 出 金					
		県 支 出 金				1,196	1,800
		地 方 債					
		そ の 他					
		一 般 財 源				48,639	48,202
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—			1,607,581
市民1人当たりのコスト(円)		—			1,585	1,611	

【事務事業の今までの成果】

事業を推進する経過において、農家・非農家が一体となり活動に向かう姿勢が見られ、農地保全の将来的な形が見えつつある。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	本施策については、各自治体で地域協議会をつくり事業推進している。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	事業事務の簡素化及び時期対策の延長希望がでている。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
A	A 現状のまま継続（実施）	事業に対する受益者の理解が得られており、事業効果も確実に現れている。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
A	テーマごとの活動を通じた地域振興に効果を挙げているところから、引き続き推進すべきと考えます。

一次評価診断図

